

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)					
審査委員会受付 番号	2016-1009	利用するもの	情報: MRI画像、認知心理テスト、精神・神経学的検査、生活習慣データ(調査票、食・生活のデータ)、センター型詳細調査、生体試料解析結果、遺伝情報、家系情報		
主たる研究機関	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	分担研究機関	東北大学		
研究題目	ストレス関連疾患のバイオマーカー探索のための症例・対象研究		研究期間	平成28年6月14日～平成32年3月31日	
実施責任者	関口敦	所属	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	職位	室長
研究目的と意義	研究目的は、メガバンク事業の重点疾患でもあるうつ病、PTSDなどのストレス関連疾患の認知神経科学的な指標を規定する諸因子を解明することである。 本研究は、科学的見地からも、被災地に裨益する研究という点からも、大変意義のある研究である。メガバンクのベースライン調査において、うつ病やPTSDなどのストレス関連疾患に罹患した患者数は限定的と推測され、早期に被災地に裨益する研究結果を出すには緊急に実施すべき研究課題である。				
研究計画概要	東北メガバンクMRI事業で実施している、MRI検査、認知心理検査と同様の検査を、国立精神神経医療センター(NGNP)において、ストレス関連疾患の患者群に対して実施する。東北メガバンクで脳MRI検査を受けている対象者の情報(MRI画像、認知心理テスト、精神・神経学的検査、生活習慣データ(調査票、食・生活のデータ)、センター型詳細調査、生体試料解析結果、遺伝情報、家系情報)を、年齢、性別、知能など結果に交絡する因子は極力調整し、約50名の情報を対照群として抽出し、症例・対照研究を行う。				
期待される成果	ストレス関連疾患において、疾患の枠組みを超えて疾患横断的に治療対象となる認知的特徴や心理的指標、行動指標ごとに特異的な脳内情報処理や脳神経回路ダイナミクスの異常の解明することにより、治療を念頭に置いたバイオマーカーを特定し、幅広い表現型を持つストレス関連疾患治療を基軸とした新たな診断学の創設が期待できる。				
これまでの倫理審査等の経過および主な議論	国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 倫理委員会にて承認済み(承認番号、A2015-109;承認日2016年2月26日)				
倫理面、セキュリティ面への配慮	・「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」に基づいた管理を実施する。 ・個人情報の漏洩については万全の注意を払い、東北メディカル・メガバンク事業の試料・情報分譲審査委員会の定めるセキュリティポリシーを遵守する。				
その他特記事項	なし				
* 公開日	平成28年12月5日				
* 東北大学東北メディカル・メガバンク事業に協力された方で、本研究に限って試料・情報の利用を希望されない方は、下記までご連絡下さい。	三世代コホート参加者 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 三世代コホート室 022-718-5162 地域住民コホート参加者 東北大学 東北メディカル・メガバンク機構 地域住民コホート室 022-718-5161				